

【講演会報告】

2023 年度 被服衛生学部会講演会報告

障がいとファッションー被服衛生学分野から多様性への貢献を考えるー

佐藤真理子

文化学園大学服装学部

1. はじめに

2023 年度被服衛生学部会講演会が 2023 年 7 月 22 日(月)オンラインにて開催された。テーマは「障がいとファッションー被服衛生学分野から多様性への貢献を考えるー」である。多様性を認め合うインクルーシブ社会の実現が望まれる昨今、社会に貢献する研究・教育を進める上で、また、健康を支える衣生活を営む際に必要な知見として、本研究分野を改めて学ぶ機会とすべく、3名の講師をお招きし、お話を伺った。

2. 講演会概要

講演会は 13:00~16:20 に Zoom 利用にて開催され、参加費無料の一般公開とした。講演会参加者は、部会員 25 名、非部会員 44 名、計 69 名で、非部会員の方や学生の参加が多くみられた。

講演 1 「人生を豊かにする装いを考えるー障がい者衣料研究から見たことー」

：足立美智子氏（文化服装学院文化・服装形態機能研究所）

講演 2 「脊髄損傷者の体温調節障害と衣服」

：三上功生氏（日本大学）

講演 3 「重症心身障がい児（者）と介護者のための衣服による生活支援を考える」

：成田千恵氏（お茶の水女子大学（非））

足立氏からは、様々な障がいを抱えた方の衣生活対応について、ヒアリングの重要性やユニバーサルデザインの衣服設計についてご講演頂いた。三上氏からは、頸髄損傷者の体温調節機能と衣服への要望、それに対する支援の可能性を、成田氏からは、重症心身障がい児（者）の衣生活の現状や健常者と重症児（者）の衣環境の違い、ファッションショーを通しての啓発等についてご講演頂いた。



写真 ご講演の先生方の様子

3. おわりに

参加者からは、障がいを持つ方々の生理機能や衣環境を知ることの重要性を再認識した、着心地の良い衣服の着用が多くの方々の生活を豊かにすることを願う等のコメントを頂いた。総じて好評であり、盛会裏に終えることができた。

ご多忙の中ご講演をご快諾いただきました講師の先生方、講演会運営にご協力いただきました先生方に心より感謝申し上げます。また、本講演会にご参加いただきました皆様に深謝申し上げます。

2023 年度被服衛生学部会講演会

企画担当：佐藤 真理子（文化学園大学）

與倉 弘子（滋賀大学）

小野寺 美和（甲南女子大学）

<連絡先>

〒151-8523 東京都渋谷区代々木 3-22-1

文化学園大学 服装学部 機能デザイン学研究室
佐藤 真理子

TEL/FAX: 03-3299-2336

Email: mari-sato@bunka.ac.jp